

達磨さん

生家がある平沢部落の西外れに、樹齡二〇〇〇年の杉の大木と、その下に達磨神社がある。安産達磨と云って、お産の神様を祭った素朴な建物がある。昔、難産で苦しむ産婦の傍にただけで安産に変わり無事子供を産むと言う。その産婆さんのコーサーさんとか云った人を祭った神社だそうだ。旧暦三月十五日は達磨さんの祭礼だった。

山の人に鎮座する日吉神社の、御輿を大字平沢部落（明治時代は平沢村）の男四人で担ぎ回る。主だった家の庭に安置し、神主さんが祝詞をあげ、お獅子舞いを披露、お獅子パクパクといつて大きな口をあげ、子供と頭痛持ちの人の頭をくわえる真似をする。小さい子供は恐ろしくて、泣き出すのを面白おかしく、シズッタ（からかう）ものだ。近くの家々から奉納するお米やお賽銭を上げ、お札を頂



達磨神社お祭りと杉の大木

戴する。

達磨神社とは誰も云わない。達磨さんと云った。社に行ってみると、屋根だけの建物と、古い鳥居があるだけだが、あの当時は出店が二・三十店も出たし、サーカスが来た事もある。近郷近在はおるか遠くからも参拝客で賑わった。

親から小遣い十銭か二十銭貰い、出店で何買ったか憶えて

いないが、綿菓子や飴を買ったのだろう。旧三月十五日は桜の季節だ。平沢小学校の桜が満開の時があった。新町の通りが参拜客で賑わい、小学校のしだけ桜の風情が甦って懐かしい。

生家の道路沿いには奇麗な用水が流れている。達磨さんより五百米程西の山の麓に水神社（お水神さん）があり、境内の杉の大木の根本から、大量の湧水があり、飲料に適し、昔から長命の水と云って部落の人々に、貴重がられ、大切にされてきた。

今でもお茶の水として汲みに来る人は後を絶たない。私も仙台に引越してから、時々汲みに行く。蔵王町でも、上水道の水源として、部落二、三百戸に配水している。

その水の一部が生家の道路沿いに、小さい小川になって流れている。二軒上流に大きな水車があり、米搗き等していた。私も工作物が好きで、直径五十センチ位の水車を作り、麦潰し

機を回したりして楽しんでいた。

お祭りには水車を利用して、面白いものを作った、生家の道路沿いの入り口に、流れを利用しての洗い場がある。その脇の生け垣の上に、傘の骨ばかりの様な物に、玩具や飾り物などを吊して、ゆっくり回転させる、なかなか風情があつて面白い。祭りの参拝客は、どうして回るのか、首を傾げて通って行く、二十米上流の水車から生け垣の中に張った黒い木綿糸で回っているのが分らない。

あの光景が今でも鮮やかに、思い出される。私はまだ小学生の頃だ。水車で動く時計を計画したこともある。いろいろな物を考え、作る楽しみは、今でも衰える事がない。満足なものはないが。

平成十四年八月二十七日